令和６年度地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業

医療現場の業務DXに資する
AI人材育成に向けた学科転換事業

事業概要

令和６年10月29日

キックオフ会議資料

文科省事業の概要

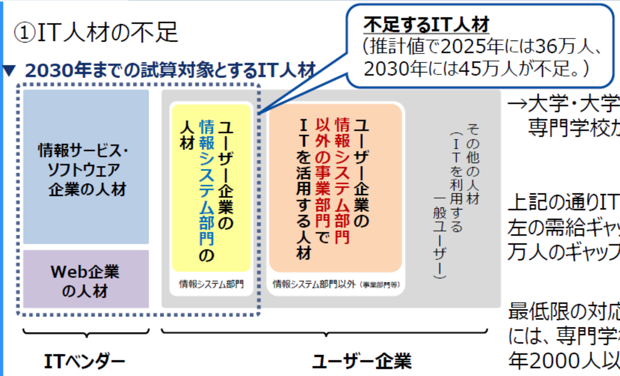
地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業

令和6年度予算額　　328百万円
（新　　規）

文部科学省

現状・課題

①IT人材の不足



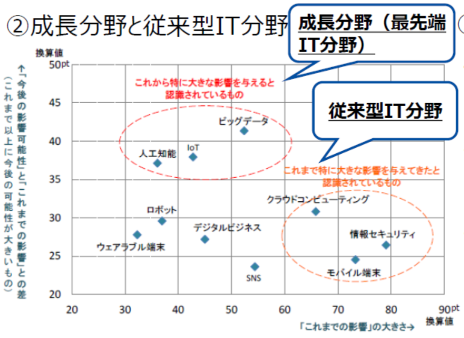
→大学・大学院から約4万人／年(R3)
専門学校から約1万人／年(R3)

上記の通りIT人材を輩出しているものの、左の需給ギャップ。産業全体で毎年約1万人のギャップが生じる

最低限の対応として、ギャップを補うためには、専門学校で育成するIT人材の毎年2000人以上増（目安）が必要

※出典「IT人材需給に関する調査」報告書（H30みずほ情報総研）、「学校基本調査報告書」(R3文部科学省)

②成長分野と従来型IT分野



※IT人材の最新動向と将来推計に関する調査結果（H28経済産業省）等に基づき整理

③東京偏在、分野偏在

- IT産業（情報通信）の従業員数の51.1%は東京都に集中しており、他産業と比べ東京偏在が顕著。（全産業では東京15.6%）
- 地方の小規模校も新分野の創設をしやすくする措置も並行して実施（専修学校基準改正済み）
- 専修学校に在籍する生徒のうち、理系分野は16.6%（工業15.8%、農業0.7%）。医療、衛生、教育・福祉分野が多い（45.4%）。

⇒地方のIT人材不足にも応えていく必要

※出典「平成26年経済センサス-基礎調査事業所に関する集計」、「学校基本調査報告書」(R3文部科学省)

事業内容

「骨太の方針2023」においても、成長分野への再編や先端技術に対応した教育の高度化等を通じ、専門学校を含む高等教育機関の機能強化を進めることは重要な課題と指摘。

これを踏まえ、専門学校としても、特にIT人材その他理系人材の不足等に対応していくため、学科の「理系転換」等の再編を推進する。

①ビジネス学科やデザイン学科など、就労後の実務がIT化している学科のカリキュラム**高度化**（設置認可分野の転換を伴うものを想定。例：「商業実務」から「工業」へ）

②需要の減少している学科について、ITをはじめとする理系分野の学科への**転換・新設**

（支援する取組）

・移行計画の策定　　・最新の技術動向や市場ニーズに即したカリキュラムの調査・設計

・上記に伴う理系教員の追加配置、既存教員の研修　　・企業と連携した実習（転換に伴う新規開拓を含む）等　※施設・設備の整備については本事業対象外であり補助金の申請が必要

①高度化（設置認可の分野変更を伴い、教員やカリキュラムの変更を要するものを想定）

（想定例）

経営経理学科（商業実務分野）→ITエンジニア科、Webクリエイター科（工業科）

デザイン学科（服飾・家政）→ CGデザイン学科、ゲームエンジニア科（工業科）

音楽放送芸術科（文化・教養）　→デジタルミュージック科（工業科）　など

●件数・単価：３箇所（上記３分野）×約１８百万円

②転換・新設（地方や都市部でのIT人材その他理系人材不足への対応に資する計画であって、工業分野等への設置認可の変更・新設を伴うものを想定）

（想定例）

成長分野（IoT、ビッグデータ、AI）への転換・新設

従来型IT分野（クラウド、情報セキュリティ、モバイル）への転換・新設　など

●件数・単価：１２箇所（上記６課題×２　（地方１・都市部１））×約２１百万円

事業の目的・背景

■目的

　医療事務の実務を支える診療情報管理士について、情報システムの基本的な仕組みへの理解やAIリテラシーの向上と病院実習を重視した育成カリキュラムへと移行することで、医療DXを牽引する人材を輩出し、地域医療の質向上と持続可能な医療システムの構築に寄与する。

■背景

社会動向

医療DX令和ビジョン2030
・全国医療情報プラットフォームの創設・医療DX推進機構の設置
・電子カルテ情報の標準化・普及
・診療報酬改定に伴うDX推進

医療現場の課題

医療情報管理に加え、活用への展開
・医療データの分析・活用に基づく経営
・医療DX導入によるサービス向上・効率化

医療DXの実務を支える人材の不足
・情報システムの基本的な仕組みへの理解
・データの土台を整備し、分析結果を経営に生かすためのスキル

これからの診療情報管理士に求められる能力

病院において医療DXを推進できる能力・スキル
・ITに関する基礎理解
・医療制度等の基本知識
・AIやビッグデータを活用する知識
・医療経営への応用できるアウトプット能力
・医療現場で適切に連携・情報共有ができるコミュニケーション能力　等

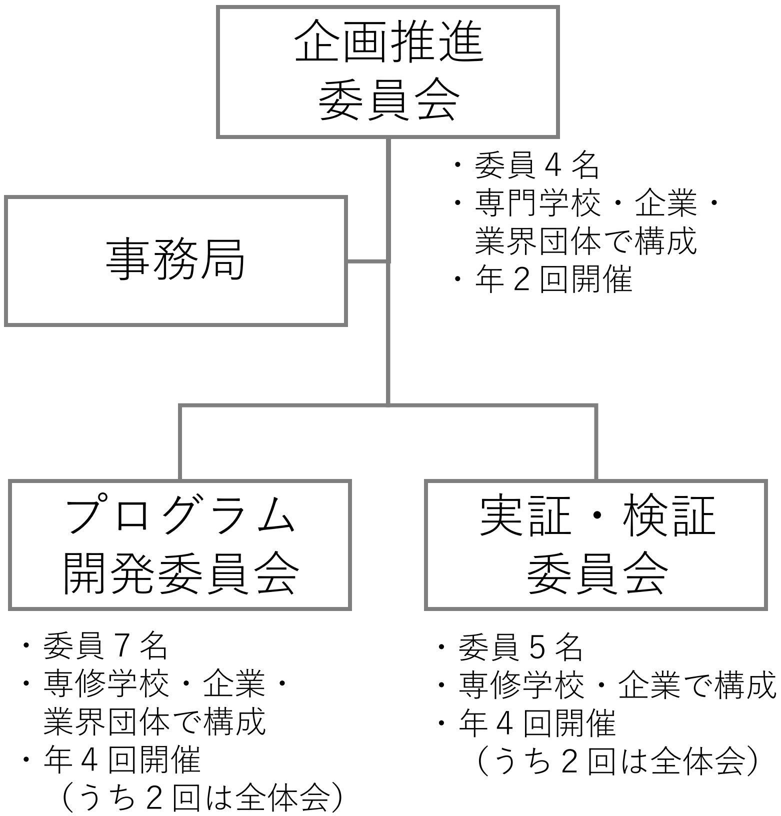
資格取得中心の教育モデルから、
<u>医療DXに対応した実習重視の診療情報管理士の育成カリキュラムへの転換</u>

新しいカリキュラムへの転換のイメージ

- 多くの専門学校では文系学科として診療情報管理士科を運営し、主に資格検定取得を重視している。
- 就職先病院への調査では、以下が重要と判明。
  ①医療DX対応のデジタルリテラシー（AI、データ分析等）を習得していること
  ②病院実習を通じた実体験が豊富であること
- 新しい診療情報管理士の育成カリキュラムでは、診療情報管理士と医療情報技師の認定取得に限定し、デジタルリテラシー（AI、データ分析等）の向上や病院実習に時間を再配分する。

実施体制と期待される役割

【実施体制】



【各委員会の役割】

委員会	役割
企画推進委員会	〇事業方針や進捗状況、予算執行管理等の統括 ・事業計画および予算執行に関する管理を担当。 ・両委員会の進捗状況および会計等事務処理を監督する。 ・事業推進における課題の洗い出しと対応策の検討。 ・本事業の普及施策を検討する。
プログラム開発委員会	〇教育プログラム開発に必要な情報の調査、教育プログラム開発 ・病院等にヒアリングを行い、診療情報管理士に求められるスキルや知識を特定する。 ・特定した必要スキル、知識を分類し、教育カリキュラムに反映させる内容を確定する。 ・上記をもとに教育プログラムの開発（カリキュラム、シラバス、コマシラバス等）を行う。
実証・検証委員会	〇実証・検証方法の検討、実証・検証結果に基づく改善事項の提案 ・開発したプログラムの実証方法（授業・実習）の検討、効果の検証を行う。 ・検証結果をプログラム開発委員会にフィードバックする。

３年間の事業フローとマイルストン

- 調査事業は事務局中心に実施。開発・実証・検証は各委員会を開催しながら委員協力のもと実施する。

	令和６年度	令和７年度	令和８年度
企画推進	事業企画・全体設計	実証結果を元に専門家との意見交換 他校での実証展開の準備	実証結果を元に課程新設の検討 普及のための成果とりまとめ 普及版人材育成プログラムの作成
プログラム開発	調査①人材スキルニーズ調査 調査③ＡＩリテラシー調査 育成像と教育要件の定義 教育プログラムの開発 実証用シラバス・カリキュラム作成	教材の作成 教育プログラムの改善 シラバス・カリキュラム 教育プログラム改善案の作成	教育プログラムの改善
実証・検証	調査②バックオフィス業務調査 病院での実習プログラムの検討 教育効果の検証スキームの設計 効果検証の指標・方法の設定	実証授業の実施 実証授業の効果検証 病院での実習プログラムの開発 実証用実習プログラムの作成 実証実習の実施 実証実習の効果検証 実習プログラムの改善	他校での実証授業・実習の実施 実証授業・実習の効果検証 実習プログラムの改善

凡例
- 実施項目
- マイルストン
- 実証

実施事業の概要①

■調査事業

事業名	目的・方法	明らかにすること
調査①人材スキルニーズ調査（病院などの医療機関における新卒採用人材に求めるスキルレベル調査） ※詳細は事業計画書P.12	• 病院が求めている人材要件と専修学校が定めているディプロマポリシーが整合しているかを確認し、新たに開発する教育モデルの必要な要素を洗い出す。 • 病院等の医療機関へのアンケートやヒアリング	• 新卒人材に求めるスキルセット • 入社3年以内の職員が実際に行っている業務内容 • 調査対象の病院でのAI活用事例 • 病院現場で求められる人材要件の類型化、AIリテラシーレベル　等
調査②バックオフィス業務調査（病院などの医療機関におけるバックオフィス業務の現状調査） ※詳細は事業計画書P.12-13	• AIソリューションを導入する前の医療現場における業務工程を把握することで、AI導入後の状態との比較対象を明確化する。 • 病院等の医療機関へのアンケートやヒアリング	• 現状の業務フロー図 • 業務上の課題のリストアップ • 病院の現場の業務の改善点の所在 • 起こっている問題の類型化　等
調査③ＡＩリテラシー調査（AIなどデジタルツールを用いた業務効率化に必要なAIリテラシー調査） ※詳細は事業計画書P.13	• 業務DXを行う上でAIを活用するために、どのようなスキル獲得が必要であるかを可視化する • 当該技術を先進的に利活用もしくはAIソリューションを提供する企業へのアンケートやヒアリング	• 実際の業務効率事例 • 実行した人材のAIリテラシー • 企業の人材育成プログラム • 業務効率を高めるAI利活用法の類型化 • AIリテラシーを高める学習方法　等

実施事業の概要②

■開発・実証事業

実施項目	概要
①教育教材の開発 ※詳細は事業計画書P.8	• AIの基礎から応用、実際の病院の現場においても活用できる技術に昇華していくために必要な教材を完成させる。 • AI人材以外の教員用の指導マニュアル等も作成する。
②実証授業の実施 ※詳細は事業計画書P.13-14	• AI基礎・応用やデータ分析に関する実証授業の実施 • ２年度目に、麻生医療福祉＆保育専門学校　AI&診療情報管理士科の学生を対象に実施 • 2025年4月1コマ、2025年8月1コマ　を想定 • ３年度目には、プログラム開発委員に参画している3校の対象学科の学生を対象に実施
③病院における実証実習のプログラム開発	• 委員会に参加する医療機関の委員と、病院実習でバックオフィス業務効率化を図るために必要なプログラムを完成させる。 ①診療情報管理士の基本的な役割と責任を理解し、医療情報の収集、整理、保管、分析の方法を学ぶ。 ②AIを用いたデータ管理と分析の実践スキルを習得し、医療データの効率的な活用方法を学び、実務に応用する。 ③AIツールを活用した業務の効率化方法を学ぶ。医療データの分析を通じて診療の質向上や経営改善に貢献するスキルを身につける。
③学生のIT及びAIスキル・リテラシーの計測・検証 ※詳細は事業計画書P.14	• 学生のITおよびAIスキルを定量的に計測することを起点に、実習でスキルを活かすことができたかを計測する検証方法を完成させる ①入学時点でのITおよびAIリテラシーチェック ②IT及びAI関連の科目の単元ごとに実力テストによる入学時との習熟度差分の可視化 ③２年次後期の病院実習での病院関係者からの実習評価 ④学生を指導する教員スキル評価 ⑤これらの評価を踏まえたカリキュラムの見直し
④事業全体の成果及び測定指標	※詳細は事業計画書P.17

本日の分科会のアジェンダ

①各分科会に分かれての意見交換（15:40～16:40）

・　各部会でのチームビルディング（アイスブレイク）

・　今後の部会での検討内容の意見交換

※　初回ですのでまずはお互いの人柄の理解と、考えていく方向性の共有ができればと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

部会	会場
企画推進委員会	10号館2F大会議室
プログラム開発委員会	10号館2F大会議室（OL有）
実証・検証委員会	10号館3Fグループスタディ室（OL有）

②全体での「目指す人材育成像」の共有・意見交換（16:50～17:50）

・　各分科会での意見の共有

本日の意見交換のテーマ（人材育成像の共有）

全体での共有・意見交換

本事業を通じて、
どのような知識・能力・経験を
持った人材育成像を目指すか？

企画推進委員会

本プログラムを
効果あるものとす
るため、どのよう
な国の政策動向や
技術動向に対応し
ていくべきか？

プログラム開発委員会

診療情報管理士を
目指す人の状況に
あわせて専門学校
はどのような
知識・能力・経験
を提供すべきか？

実証・検証委員会

これからの病院で
貢献できる
診療情報管理士は、
どのような知識・
能力・経験が
求められるか？

※　やや大上段なテーマではありますが、、、キックオフ会議ではまずは「どう思うか？」を気軽にお話
下さい。今後の論点の頭出しや事業を進めるうえでのアイデア出しができればと考えております。

事前ヒアリングで聞かれた診療情報管理士養成へのニーズ

【多くの病院で共通している必要な能力】

- コミュニケーション力
  （聞く力、信頼関係構築、チーム形成力、精神的タフさ…）
- 医療的な知識
  （医療者との共通言語、医療情報技師・医療事務系などの資格取得…）
- 情報処理能力と課題解決力
  （効率的なソフト操作、統計処理の技術、データの読解力と慎重さ…）

【病院ごとに異なると思われる状況】

- 病院規模や部門の性質の違い（統合的な事務部門か、機能分化した部門か）
- 情報システムの運用・企画に近い業務があるか
- 将来のキャリアパス
- 医療DXの導入状況の違い（多くの病院で課題がある現状を聞いている）
  ※　学校ではなく、病院現場で身に付けた方がよいこともある